

JSET

No.152

2007-06-27

日本教育工学会ニューズレター

JAPAN SOCIETY FOR EDUCATIONAL TECHNOLOGY

事務局：〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル

電話 / FAX : 03 - 5740 - 9505 e-mail : office@jset.gr.jp

日本教育工学会ホームページ http://www.jset.gr.jp/

ISSN 1340-9913

日本教育工学会の新しい役員と共に

赤堀侃司（東京工業大学）

これまでの役員の皆様へ

総会で承認されて決まりますが、日本教育工学会の新しい役員、理事・評議員が選出されました。これで、スタートします。学会の運営は言うまでもなく、ボランティアで成り立っています。会計、編集、研究会、大会、企画など、学会を育てるための活動ですが、2年間経過して、多くの人の努力で成り立っていることを、実感します。山西潤一副会長が任期で交代されますが、国際交流では多くのご足労をおかけしました。先生のお陰で、中国や韓国の教育工学会とのパイプができました。ニューズレターの刊行も常に気を遣う仕事で、ミスがないような配慮が必要で、何度もチェックされていることに頭が下がります。広報、大会企画、編集、研究会など、これまで関わって頂いた役員の皆様、本当にありがとうございました。

新しいスタートを

新しい役員が決まりますので、新しいスタートをします。私個人としては、若い人に頑張って頂きたいと思っています。どんな仕事も、その椅子に座れば、なんとかやり方が見えることがあります。失敗もあると思いますが、失敗は、どんな仕事にもつきものですから、恐れずに進んでいただきたいと思っています。若い人は、いろいろな経験を積んで頂き、それが将来必ず役立つと思っています。私の研究室の学生にも、そのように言っていますし、信じております。私も、東京学芸大学に学会事務局があった時代から、学会の活動に関わってきましたが、多くの失敗があり、申し訳なく思っていますが、なんとか皆様の協力のお陰で、ここまでできております。新しい役員の皆様、どうぞ、よろしくお願ひします。特に、会計や編集などで、超人的な活動をしていただいている清水康敬理事には、今後とも、どうぞよろしくお願ひします。

本号目次

日本教育工学会の新しい役員と共に.....	1	研究会の開催案内／発表募集／報告.....	13
第23回全国大会のお知らせ（第三報）.....	2	第11期第16回理事会議事録.....	15
2007年夏の合宿研究会のお知らせ(最終報).....	12	学会日誌／国際会議案内等.....	16

日本教育工学会 第23回全国大会のお知らせ

(第三報)

日本教育工学会第23回全国大会を、下記のように早稲田大学(所沢キャンパス)において開催します。多くの方々のご参加をお待ちしています。今大会では、一般研究発表にてポスター発表ができますので、これに奮ってご応募ください。

1. 開催期日・会場

期日：2007年9月22日(土)～24日(月)(3日間)

会場：早稲田大学人間科学部(所沢キャンパス) *西早稲田キャンパスではありません。

〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島2-579-15

西武池袋線小手指(こてさし)駅よりバス15分

(小手指駅南口ロータリーより直行バスを運行する予定、片道150円。なお、午前8時台は北口ロータリーから発車します。)

<http://www.human-waseda.jp/about/access.html>

2. 大会日程

第1日 9月22日(土)	第2日 9月23日(日)	第3日 9月24日(月)
9:30～10:00 受付	9:00～9:30 受付	9:00～9:30 受付
10:00～12:00 一般研究発表1	9:30～12:30 一般研究発表3	9:30～12:30 一般研究発表4
12:00～13:30 昼食	12:30～14:00 昼食・理事会	12:30～13:30 昼食・
13:30～15:30 シンポジウム1	14:00～14:30 全体会	大会企画委員会
15:40～18:20 一般研究発表2	14:30～17:15 シンポジウム2	13:30～16:00 課題研究発表
	17:15～17:45 移動	
	17:45～19:45 懇親会	

*プログラム編成によっては、時間帯が若干変わることもあります。また、企業展示が大会開催期間中終日催されます。ぜひ見学にお立ち寄り下さい。なお、2日目の全体会では、研究奨励賞及び論文賞の表彰があります。

3. 各セッションについて

(1) シンポジウム

以下のようなテーマが予定されています。

シンポジウム1

シンポジウム1A e-Learningが変える高等教育システムー伝統的学部・大学院教育の
変：研究・教育そして人材育成ー

コーディネータ(五十音順、以下同様)：野嶋栄一郎，松居辰則(以上早稲田大学)

司会：松居辰則(早稲田大学)

登壇者：小松川浩(千歳科学技術大学)，玉木欣也(青山学院大学)，

野嶋栄一郎(早稲田大学)，不破泰(信州大学)

高等教育機関での e-Learning の利活用は一般的になりつつある。そのアイデアや成果は現代 GP、特色 GP 等の支援プログラム、および関連学協会を通して広く報告されている。その多くは基礎教育、語学教育、専門教育等の学習環境基盤としての e-Learning である。つまり、従来型の学部教育や大学院教育の実施を前提としてそれを補完することや学習の機会を拡大することが中心的な目的となっている。しかしながら、e-Learning を導入することの本来的な目的は学生の学力や質の向上は言うまでもなく、教員の教育・研究に対する意識改革、授業スキルの向上、組織の発展的改変、ひいては学部や大学院の組織基盤として機能させることにある。これを実現するためには、従来型の学部・大学院教育においてどのような e-Learning のモデルを構築すればよいのか、そしてそれを実効性の高いものとならしめるためには、どのような組織構成を考えればよいのか。ここでは、高等教育機関の教育目的の中に「人材育成」を取り入れることが鍵となる。本シンポジウムではこのような意識のもので e-Learning を導入している組織の関係者を招き議論を行う。

*なお、このシンポジウムについては、広く一般に公開するために、当該シンポジウムだけの特別参加（参加費の支払いを免除）を認めます。

シンポジウム 1B 実践研究をどのようにデザインし、論文にまとめるか

コーディネータ：木原俊行（大阪市立大学）、
清水康敬（メディア教育開発センター）
報 告 者：益子典文（岐阜大学）、山内祐平（東京大学）
コメンテーター：植野真臣（電気通信大学）、鈴木克明（熊本大学）、
矢野米雄（徳島大学）

本シンポジウムは、大会企画委員会と編集委員会が連携して、企画・運営するものである。日本教育工学会において、実践研究は重要な研究分野の1つであり、「日本教育工学会論文誌」の投稿表にこのカテゴリーを設けて投稿を推奨している。しかし、教育実践をつかさどる要因が複雑であるため、研究のデザインや実施の折に、そして研究の結果得られた知見を論文としてまとめる際に、少なからぬ困難に遭遇すると思われる。また、研究の企画遂行における倫理的問題への対処等についても、配慮すべき事項が多い。

そこで本シンポジウムでは、2つの実践研究事例を対象にして、本学会における実践研究のデザインや報告等について、その基本的な考え方や求められる要件について討論したい。

シンポジウム 2 教育工学研究に望まれる方法論－実践・政策・市場原理を踏まえたデザイン－

コーディネータ：山西潤一（富山大学）
基調講演者：赤堀侃司（東京工業大学）
パネリスト：
授業実践の立場から：前田康裕（熊本市立飽田東小学校）
教育産業からの期待：黒川弘一（光村図書出版株式会社）
システム開発の立場から：香山瑞恵（信州大学）
他学会からの期待：佐伯 胖（青山学院大学）
教育行政の立場から：堀田龍也（メディア教育開発センター）

教育工学は、学校、行政、企業などと連携を保ちながら研究を進めている。しかし、実践と研究、政策と研究、市場原理と研究は、それぞれ目的意識が異なる。

教育工学会の重点施策をふまえて、さまざまな実践研究の知見をどう共通の学問的知識として共有化するか、さまざまなコンフリクトが存在するなかで、それぞれの立場を超えてどのように協調・協業の成果を生み出していくか、人、組織、マネジメントサイクルなどの観点から討議する。

(2) 課題研究

「日本教育工学会が取り組むべき重点研究内容」の提言を踏まえながら、以下のような8件のテーマを設定することになりました。

なお、課題研究はその課題について十分に討論することを目的としていますので、発表だけで退席することなく、最後の総合討論に参加していただくことが発表者に求められます。この点、ご留意ください。なお、課題研究のセッションは最終日の13:30-16:00に設定されています。

1. 新しいICT技術・教育システムの開発に関する研究

■K-1 モバイル・ユビキタス技術の教育利用

コーディネータ：中原 淳（東京大学）、林 敏浩（香川大学）

近年、様々なモバイルデバイスの教育利用が進んでいる。NINTENDO DS や PSP を活用した e-Learning 補習システムや、携帯電話を活用した授業支援システム、展示支援ガイドなど、その事例は枚挙に暇がない。また、センシング技術を活用したユビキタス学習環境についても、実用化の段階に進んできている。特に、最近では、教室環境やワークショップスペースの設計に焦点を当てた「ラーニングスペースリサーチ」という概念も登場してきている。本セッションでは、モバイル・ユビキタス技術の教育利用に関係する、幅広い研究発表を募集する。また、教育利用を前提としたモバイル・ユビキタス技術の提案・開発に関する研究発表も歓迎する。

■K-2 学習方略フィードバックのための学習コンテンツの構成と学習データの利用

コーディネータ：松居辰則（早稲田大学）、室田真男（東京工業大学）

ICT を利用した、特に Web 型の学習支援システム（広義の e-Learning）では、学習方略に関するフィードバック（学習内容の個別適応化、学習評価など）をいかに行うかが重要なポイントとなる。本課題研究では、それを実現するための、学習コンテンツの構成法、インデックスの作成や付与方法（自動化技術も含めて）、学習評価のための各種データの利用方法と可視化、その理論、技術、実践など、e-Learning において学習方略をどのように捉え、どのようにフィードバックするのかについて議論し、問題点と課題を共有したい。e-Learning においては、その全てを自動化するのではなく、人間教師の関わりが重要であることは言うまでもないが、その人間教師の営みや意思決定のための強力なツールを提供することは、結果として e-Learning の質を向上させることにつながる。従って、e-Learning における人間教師との関わりまで言及したいと考えている。

■K-3 ICT 技術・教育システムの評価の視点と方法

コーディネータ：池田 満（北陸先端科学技術大学院大学）、
中山 実（東京工業大学）、平嶋 宗（広島大学）

ICT を基盤とした新しい教育・学習のあり方を提案していくことは、教育工学における重要な課題の一つであるといえ、数多くの研究が行われている。しかしながら、提案された新しい形態の教育・学習をどのように評価するべきかは、必ずしも明らかではない。教育・学習の目標を何らかの測定によって評価することが最終的には必要であることに合意できたとしても、どのように評価するか自体が大きな課題である。また、新しい技術あるいはデザインを生み出そうという立場からすると、限られた評価手法によって教育・学習における効果を測定することは、必ずしも妥当とはいえない。本課題研究では、このような問題意識を踏まえ、どのような視点から、どのような評価を試みたのか、またなぜそのような視点および評価が妥当と考えるのかといった「評価の視点と方法」に関する報告を募集する。さらにこれらの報告を題材とした討論の場を設ける予定である。

2. 高度で効果的な教育方法の開発と普及に関する研究

■K-4 教科指導における ICT 活用の効果分析とそれに基づく授業デザインの研究

コーディネータ：小泉カキ（尚美学園大学）、高橋 純（富山大学）

国は文部科学省を中心として初等中等教育の情報化を推進している。2006年1月に示された「IT新改革戦略」では、「教科指導におけるITの活用」を推進するために「教科指導における学力の向上等のためのITを活用した教育を充実させる」ということが示されている。授業にICTを活用して児童生徒の学力向上につなげた実践事例を教育工学的見地から分析し、より多くの教員が自らの授業でICT活用を実践するための授業デザインの研究が必要であるとする。本課題研究では、ICT活用事例の調査と分析、ICT活用による学力向上の効果測定、ICTを活用した授業方略の研究など、広く授業実践に基づいた研究成果の発表を期待したい。

■K-5 教育サービスとしての e-Learning 導入の検討

コーディネータ：赤倉貴子（東京理科大学）、金西計英（徳島大学）、
田口真奈（メディア教育開発センター）

遠隔教育として注目を集めた e-Learning であるが、我が国では、シラバスの電子化や LMS の導入といった対面授業を補完する形での e-Learning が浸透してきている。e-Learning を教育サービスとしてとらえた場合、大学全体の IT 化についてのグランドデザインが必要不可欠である。e-Learning がさらなる展開を迎えるためには、より広い視点から e-Learning 導入の目的や、その効果についての議論が必要である。そこで、単なる e-Learning 導入の紹介や、活用事例の報告ではなく、機関全体で IT 化に取り組む事例から、実りある効果をどう導くかについての提案を募集する。

■K-6 教育工学関連製品を企業の開発者自身が点検・評価・検証する

コーディネータ：鈴木克明（熊本大学）、井上義裕（日本電気）、
大久保 昇（内田洋行）、奥田 聡（富士通）、
栗山 健（学習研究社）、野澤敏夫（東京書籍）

自ら開発や企画を手がけた機器・システム・コンテンツ・サービス、イベントを含む支援事業等、これらが現場でいかに機能しているかの点検評価検証研究を募集する。アイデアが製品となって市場に投入され、市場での競争と教育現場での利用を経て、さらにより製品へと改良が加えられる。そのような循環の促進を学会として考えたい。現場のニーズをどのように掴み、どのような効果を狙って開発し、また現場では意図するとおりに使われたかどうか、また、利用者の要望についてはその後どのように製品に反映してきたのか、このような点からの報告を特にお願いをする。発表から課題を抽出し製品開発や現場での運用研究に通じる議論の場を設けるので、企業関係者からの多くの応募を期待している。

3. 教育工学研究・実践研究の体系化に関する研究

■K-7 情報教育カリキュラムの再検討－新学習指導要領・情報モラル教育の重点化を受けて－

コーディネータ：久保田賢一（関西大学）、中橋 雄（福山大学）、
堀田龍也（メディア教育開発センター）

中央教育審議会の審議では、新しい時代の学校像が検討されてきた。これにより、学校の裁量が多くなり、外部評価が強化される。このような政策の中で、情報教育の面では、情報モラル教育に注目が集まっている。しかしながら、学校現場ではまだ情報教育に対して誤解や無理解があり、情報モラル教育を含む情報教育が十分に普及しているとは言い難い。そのことを踏まえ、新しい学習指導要領を射程に入れた情報教育のカリキュラムについて議論したい。実践研究および研究方法論の研究成果を通じて、政策と学校現場の間にあるギャップをどのように埋めていくか提案する発表を募集する。

■K-8 教員の ICT 活用指導力を高める養成・研修と実践

コーディネータ：新地辰朗（宮崎大学），東原義訓（信州大学）

ICT を効果的に活用する指導力を高めるためには、基準の策定、その基準に対応した教員養成、教員研修、そして教育実践が望まれる。実際に、2006 年度末文部科学省より「全ての教員を対象とした教員の ICT 活用指導力のチェックリスト（全 18 項）」が公表され、さらに管理職用の基準策定も予定されている。このような動向を踏まえ、ICT 活用指導力の基準の在り方、具体的項目、その活用方法、研修プログラム、基準の活用による効果、諸外国との比較など、ICT 活用指導力に関わる様々な研究や実践について情報交換し、教員の ICT 活用指導力を高める養成・研修と実践について議論を深める。

(3) 一般研究

一般研究発表は以下のテーマのセッションで行われます。セッションは申し込みの状況に応じて統合・分割などの調整を行うことがあります。なお、「その他」を選んだ場合は、分野及び想定されるセッション名を記述していただくことになります。

なお、今大会の一般研究発表については、口頭発表とポスター発表のどちらかを発表者が選べることになりました。ポスター発表のセッションは、より深い議論の場を提供するために、口頭発表と同時間帯に並行して開催されるものです。ただし、ポスター発表者は、発表時間帯にポスター前で、説明と討論に従事しなければなりません。

(1) 語学教育・国際理解 (2) 情報教育 I (情報活用能力の育成等) (3) 情報教育 II (教科指導等) (4) メディア教育・メディアリテラシー (5) 教師教育 (6) 特別支援教育 (7) 生涯学習・企業内教育 (8) 看護・福祉教育 (9) 教育評価・データ解析 (10) 授業研究 (11) 授業設計・実践 (12) 高等教育における教育方法 (13) 教育ソフトウェア開発・評価 (14) 学習コンテンツ開発・評価 (15) 遠隔教育・遠隔学習 (16) 認知モデルと知的学習支援システム (17) インターネットを利用した授業実践 (18) 教育メディア (19) e-Learning (システム) (20) e-Learning (運用・評価) (21) 協調学習と協調作業 (22) ワークショップ (23) その他

*あらたに、「ワークショップ」というセッションカテゴリーを設けました。

(4) International Session

従来の English Session を名称変更したセッションです。発表及び質疑応答が英語で行われます。本セッションは、教育工学研究の国際化に対応するものであるとともに、特に若い研究者に対しては、国際学会等での研究発表や討論を有意義なものとするための体験を提供する機会でもあります。このような趣旨をご理解いただき、このセッションに奮ってご応募いただきたいと思います。なお、発表は一般研究発表 1～4 のいずれかのセッションと同じ時間帯で行われます。

◆発表時間について

発表時間は以下の予定です（発表件数に応じて変わる場合があります）。

[課題研究] 課題研究の趣旨説明 10 分 研究発表各 15 分 総合討論 1 時間程度

[一般研究] <口頭発表>発表 15 分 質疑応答 5 分 <ポスター発表>1 セッション（約 3 時間）の間、掲示し、説明や討論に従事することになります。

[International Session] 発表 15 分 質疑応答 5 分

4. 大会までのスケジュール

- 7月5日(木) 課題研究採否決定通知
- 7月19日(木) 課題研究・一般研究・International Sessionの参加費事前送金締切
(郵便振込の場合)
- 7月26日(木) 課題研究発表原稿(2又は4ページ)提出及び参加費事前送金締切
一般研究発表/International Session申込書・原稿(2ページ)提出
及び参加費事前送金締切. なお, **17:00が最終締切時刻**となります.
- 8月16日(木) 発表者以外参加費等事前送金期限(郵便振り込みの場合)(それ以降
は送金しない)
- 8月23日(木) 発表者以外参加費等事前送金期限(それ以降は送金しない)

5. 大会の参加申し込み及び受付等について

大会に参加を希望される方は以下の手順に従って、申し込みをお願いします。

(1) 事前送金の場合の参加費等について

事前に参加費等を送金される場合は、以下の金額を8月23日までに送金を完了してください。それ以降に送金された場合は不足額を会場でお支払いいただきます。

また、発表者は、7月26日(木)17:00までに、参加費の支払いを完了してください。
この期限までに参加費及び2007年度会費の納入が確認できない場合は、発表は取り消し
となりますので、ご注意ください。

参加費	一般(会員・非会員)	3,000円(当日は4,000円)
	本学会の学生会員	2,000円(当日は3,000円)

懇親会費 5,000円

講演論文集代(CD-ROM付) 6,000円

講演論文集の送料(参加されない場合) 1,000円

なお、送金後の変更に伴う返金は原則としていたしませんので、ご了承ください。

ただし、8月23日(木)までの変更については、返金は致しませんが、次年度の年会
費に振り替えることができます。学会事務局(世田谷) office-s@jset.gr.jpまで連絡く
ださい。非会員の場合は入会をしていただくこととなります。この日以降は、変更を連絡
いただいても、原則として返金等ができないことをご了解ください。

大会参加費と論文集代を送金され、8月23日(木)までに学会事務局に連絡がなく大
会に参加されなかった場合には、大会終了後に論文集をお送りします(送料は参加費で
補填いたします)。ただし、その差額は返金できません。

卒業見込み年月が過ぎた学生会員で継続の連絡がない場合は、「准会員」に会員種別が
変更されています。学生会員としての特典はありませんので、ご注意下さい。

(2) 事前送金の方法について

事前送金をしていただける場合、JSET ホームページからのクレジットカード支払い
と郵便振替の2つの方法があります。

①クレジットカードによる支払い

- ・ JSET ホームページ (<http://www.jset.gr.jp/>) の左上にある「会員専用ページ」をクリックしてください。
- ・ ただし、学会から発行してご連絡してあります ID・パスワードが必要です。パスワードをお忘れになった場合は再発行いたしますので、学会事務局（世田谷）office-s@jset.gr.jp に、電子メールでご連絡ください。
- ・ 「会員専用ページ」に入りましたら、「大会参加申し込み」をクリックしてください。
- ・ その後表示される指示に従って、手続きをお願いします。
- ・ なお、学生割引は正規の学生会員に限ります。そのため、登録されている学生会員以外は割引価格では送金できないようになっています。

②郵便振替による送金

- ・ 学会からニューズレターと一緒に送る郵便振替用紙に、必要事項を記入して、郵便局の窓口から送金してください。
- ・ 学会事務局では入金を確認後に、会員データベースに入力します。郵便局の窓口から送金されてから 1 週間から 10 日かかりますので、送金日はそれを考慮してください。
- ・ 不足料金がある場合、電子メールアドレスがわかる方にはできるだけ事前に連絡しますが、全員にはご連絡できないことも想定されますので、十分ご注意ください。

(3) 大会受付票等の送付について

事前送金された方々には、大会受付票等を 9 月はじめまでにお送りします。

- ・ クレジットカード支払い、あるいは郵便振替で事前送金された参加者には、9 月はじめまでに、「大会受付票」「大会参加証(名札用)」「領収書」を電子メールの添付書類でお送りします。
- ・ 大会当日は、電子メールで送られた「大会受付票」等をプリントしてお持ち下さい。
- ・ ただし、電子メールアドレスが登録されていない会員には、大会受付票等が送られませんので、当日会場でその旨お申し出ください。

(4) 当日の受付について

①事前送金済みの場合

- ・ 大会受付の「事前送金済参加者」窓口で、電子メールでお送りした「大会受付票」をお渡し下さい。
- ・ 大会プログラム、大会論文集等をお渡しします。
- ・ プリントして持参していただいた「大会参加証(名札用)」を名札ケースにお入れ下さい。
- ・ 大会受付票をお忘れになる場合に備えて、できれば受付番号をメモしておいてください。
- ・ 大会受付票を紛失なさった方は、「事前送金参加受付票」に必要事項を記入の上、「事前送金済参加者」窓口にてその旨、お申し出ください。
- ・ 送金金額に不足があり、大会当日に差額をお支払いいただく場合も、「事前送金済参加者」窓口にお出でください。

②当日参加の場合

- ・ 当日参加者は、大会受付にて、「当日参加受付票」に必要事項を記入して、それを大会受付の「当日参加者」窓口にてお渡し下さい。ただし、名刺をお渡し下さる場合は、連絡先住所等の記入を省略することができます。
- ・ 大会プログラム、大会論文集等をお渡しします。
- ・ 名札ケースに名刺を入れるか、お名前をカードに書いて入れてください。
- ・ 懇親会費を支払われた場合は、名札にマークをはらせていただきます。

(5) その他

- ・ 学生割引は正規の学生会員に限ります。そのため、学生会員以外が割引価格の金額を送金された場合は、差額を申し受けます。
- ・ 名札ケースは、最終日のお帰りの際に、ご返却下さい。

6. 大会への発表申し込み等

(1) 発表者の資格

- ・ [発表者]は、本学会の会員に限ります。ただし、会員以外が連名者となることは、差し支えありません。ここでいう[発表者]とは、ファースト・オーサーあるいは連名者という意味ではなく、大会当日発表される方を意味します。この会員には、発表申し込み時に入会される方も含みます。
- ・ 発表原稿受付の段階で[発表者]が年会費を納入されていない場合には発表原稿を受け付けません。また、前々回大会より、[発表者]には、事前に、大会参加費を送金していただくことになりました。ご注意ください。発表原稿送付時に、JSET ホームページ大会関係部分にて指定される「発表申し込み」の登録をしていただきますので、その登録時に年会費等の納入状況がチェックされます。事前に年会費等の納入をお願いします。なお、大会企画委員会が特に発表を依頼した場合は、この限りではありません。

(2) 発表申し込み件数の制限

- ・ 会員は、[課題研究・一般研究・International Session]に、それぞれ1件（1人合計最大3件）を発表者として申し込むことができます。
- ・ 連名者の発表件数には、制限はありません。
- ・ 類似な内容、シリーズ的な内容を複数の発表者に分割して申し込むことはできません。同一発表者が課題研究と一般研究に申し込む場合も同様です。
- ・ [課題研究]は不採択になることがあります。その場合は[一般研究]として申し込むことができますが、既に[一般研究]にも発表を申し込んでいる場合には、それを取り下げる必要があります。

(3) 課題研究の発表申し込み方法

課題研究については次のように2段階の手続きが必要です。

1) 第1段階：発表プロポーザルの提出

- ・ 発表プロポーザルの提出は、締め切られました。
- ・ 課題研究に申し込まれた発表は、現在、大会企画委員会が発表の可否について審査しています。発表の可否は、発表内容だけでなく、全体の発表件数も考慮して決められます。
- ・ 課題研究発表の採否は、7月5日（木）までに申し込み者に連絡します。

2) 第2段階：最終原稿の提出

課題研究に採択された場合、最終原稿を下記により提出してください。

- ・ A4サイズで2又は4ページ。原稿用紙は送付しません。JSET ホームページ大会関係部分に示される内容に従って作成してください。
- ・ JSET ホームページ大会関係部分から、7月26日（木）17:00までに、最終原稿のファイルを送信していただきます。
- ・ 発表時間の希望には応じられません。

(4) 一般研究及び International Session の発表申し込み方法

- ・ 7月26日(木) 17:00 までに、JSET ホームページ大会関係部分から原稿ファイルを提出してください。事前の発表申し込みはありません。この提出によって発表申し込みとします。
- ・ 一般研究と International Session の原稿は共に、A4 サイズで 2 ページです。1 ページのものは受け付けません。
- ・ 原稿用紙は送付しません。JSET ホームページ大会関係部分に示される内容に従って作成してください。
- ・ 発表日時希望には応じられません。また、発表者及び連名者には、大会企画委員会より「座長」の依頼を受けた場合には、それをご担当いただきますので、予めご了承ください。

(5) CD-ROM の作成について

今大会の論文集から、冊子体のものに加えて、CD-ROM (pdf ファイル) を作成することになりましたので、ご了承下さい。

また、大会原稿の著作権を学会にいただくことについて今後検討されることが想定されています。この件につきましては、理事会で決定されました時点でお知らせします。

(6) 発表取り消しについて

やむを得ない事情で発表を取り消しなされる場合には、すみやかに、学会事務局 (五反田) office-g@jset.gr.jp までご連絡ください。その場合には、論文集に原稿が掲載されていても、発表者の業績としてみなすことはできません (学会から提供する発表リストから削除します)。なお、ポスター発表については、ポスターを掲示していても発表者が会場にいない場合は、発表取り消しとなりますので、ご注意ください。

7. 会場の設備について

口頭発表のすべての会場で、PC を投影できる設備 (プロジェクタ) が利用可能です。発表会場にはインターネットにアクセスできる環境は用意されていません。OHP あるいは OHC の利用を希望なされる場合は、事前に下記実行委員会にお知らせください。機器の利用確認は、当該の発表セッション開始 5 分前までに発表者の責任で完了してください。また、PC から音声を流す場合は、スピーカーを発表者自身でご用意ください。

ポスター発表の会場では、幅 1 メートル・高さ 2 メートル程度のポスター掲示のパネルを用意します。また、ポスター発表 5 件に 1 台の割合でデモンストレーション用のプロジェクタを用意します。プロジェクタを利用する人はパソコンを持ち込みの上、同一会場内の利用者と時間調整してお使いください。機器の利用確認は、当該の発表セッション開始 5 分前までに発表者の責任で完了してください。

〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島 2-579-15 早稲田大学人間科学部向後千春研究室気付

日本教育工学会第 23 回全国大会 実行委員会事務局 宛

電子メールでの問い合わせ先： taikai2007@list.waseda.jp

8. 企業の展示について

大会期間中、企業による展示も行います。出展を募集いたしますので、ご希望の方は大会企画委員会企業展示ワーキンググループ (taikai2007tenji@jset.gr.jp) へお問い合わせください。

9. 宿泊案内について

大会企画委員会では旋致・紹介は致しません。参加者ご自身で早めに予約してください。

10. 問い合わせ先

大会全般に関しては以下にお問い合わせください。

日本教育工学会 大会企画委員会問い合わせ用電子メールアドレス：

taikai2007@jset.gr.jp

大会企画委員会

委員長：木原俊行（大阪教育大）

副委員長（五十音順，以下同様）：東原義訓（信州大） 室田真男（東京工業大）

幹事：金西計英（徳島大） 森田裕介（早稲田大）

委員：

赤倉貴子（東京理科大） 池田 満（北陸先端科学技術大学院大）

石川 真（上越教育大） 井上義裕（日本電気） 大久保 昇（内田洋行）

奥田 聡（富士通） 久保田賢一（関西大） 栗山 健（学習研究社）

小泉力一（尚美学園大） 向後千春（早稲田大） 新地辰朗（宮崎大）

鈴木克明（熊本大） 高井尚一郎（内田洋行） 高橋 純（富山大）

田口真奈（メディア教育開発センター） 中橋 雄（福山大）

中原 淳（東京大） 中山 実（東京工業大） 野澤敏夫（東京書籍）

林 敏浩（香川大） 平嶋 宗（広島大）

堀田龍也（メディア教育開発センター） 松居辰則（早稲田大）

アドバイザー：

赤堀侃司（東京工業大） 清水康敬（メディア教育開発センター）

永野和男（聖心女子大） 野嶋栄一郎（早稲田大） 矢野米雄（徳島大）

山西潤一（富山大）

大会実行委員会

野嶋栄一郎（委員長），永岡慶三（副委員長），向後千春（事務局），浅田匡，加藤尚吾，金子孝夫，菊池英明，岸俊行，金群，小島一晃，スコット・ダグラス，西村昭治，保崎則雄，松居辰則，三尾忠男，森田裕介（以上，早稲田大）

日本教育工学会 2007年夏の合宿研究会(最終報)

テーマ「次世代の教室のICT環境と学力向上を考える」

IT新改革戦略等により学校へのICT環境の整備が進んでいます。そこで、次世代の教室のICT環境はどのようにしたらよいか、各国事情・国内調査の結果のみならず、学力向上、問題解決能力や創造力の育成に向けた教育方法と関連させて議論します。また、ICT活用による学力向上の効果や学校現場への普及方法を検討していきます。

今夏の合宿研究会では、ICT活用や学力向上に関心のある多くの実践者、研究者の方々の参加をお待ちしております。また、将来教師や研究者を目指している学生の方々の参加も歓迎します。

■日時 2007年7月28日(土)13:30～29日(日)11:30

■場所 富山大学黒田講堂会議室(五福キャンパス正門近く)
市内電車を利用して終点の大学前で下車。JR富山駅から会場まで約20分

■対象 本テーマに関心のある研究者・学生、教育現場の実践研究者の方。

■費用と宿泊

参加費：2,000円(資料代および会場費として)

情報交換会費：6,000円(予定)

宿泊：各自でご手配をお願い申し上げます。情報交換会会場は富山駅近くですので、駅周辺のホテルがお勧めです。駅周辺には多くのホテルがあります。時節柄、混雑も予想されますので早めの手配をお願いいたします。

■参加申し込み

Webから受け付けています。URLは学会HPをご参照ください。7月13日に締め切ります。

■日程

7月28日(土)次世代の教室のICT環境を考える

○各国事情・国内調査の結果から日本が目指していくべき教室の次のICT環境を考えていきます。

13:00-13:30 受付

13:30-13:40 開会

13:40-14:30 基調講演 山西潤一(富山大学)

14:45-16:45 パネルディスカッション

司会 木原俊行(大阪教育大学)

パネラー 野中陽一(和歌山大学) イギリスの事例から

黒田 卓(富山大学) 米国の事例から

毛利 靖(つくば市立二の宮小学校) 日本の事例から

17:00-18:30 移動とチェックイン

18:30-21:00 情報交換会(高志会館)

7月29日(日)「ICT活用と学力向上」の普及を考える

○ICTを活用した学習指導には効果があると多くの調査が示しています。そこで、効果のある活用方法の普及を検討していきます。

09:00-10:30 パネルディスカッション

司会 南部昌敏(上越教育大学)

パネラー 村川雅弘(鳴門教育大学)

中川一史(メディア教育開発センター)

豊田充崇(和歌山大学)

10:45-11:15 小講演 堀田龍也(メディア教育開発センター)

11:15-11:30 閉会

■お問い合わせ先 夏の合宿担当 高橋純(富山大学) takahasi@edu.u-toyama.ac.jp

研究会の開催



テーマ 教育とメディア／一般

- 日 時：2007年7月7日(土)
- 会 場：新潟医療福祉大学 〒950-3198新潟市北区島見町1398番地
- 担当：後藤康志(新潟医療福祉大学) gotoh@nuhw.ac.jp TEL. 025-257-4692(後藤研究室)
- 交通案内：■お車で：日本海東北自動車道「新潟空港IC」を降り、新潟空港方面新新バイパス(国道7号線)「一日市IC」から新発田方面「競馬場IC」を降りて新潟競馬場方面へ進み、県道398号線との交差点を右折約1.5キロ進行方向右手。■JR線：往路：JR新潟駅より白新線「新発田方面」行き豊栄駅下車。新潟駅9時20分発で来られる方は、本学スクールバスをご利用になれます(JR豊栄駅北口9:50発→本学10:10着)。復路：JR豊栄駅15時32分発(新潟駅15時52分着)に接続するスクールバスをご利用になれます。(本学15:00発→豊栄駅15:20着) ■バス：新潟交通バス 万代シティバスセンター10番線より「松浜・太郎代浜線」乗車「新潟医療福祉大学前」下車。休日のためバスは本数が限られています ■航空機：新潟空港からはタクシー(約20分 2,500円～3,000円)。
*詳しくは<http://www.media-education.net/nuhw/nuhw.mht>を参照下さい。

研究会は当日受付にて同研究会の報告集(1,000円)をご購入いただければ、一般の方でも参加可能です。

- プログラム： 発表時間：発表1件につき25分(発表20分程度、質疑5分程度)の持ち時間です。

開会挨拶・諸連絡：10:15-10:20

午前の部 A会場(D204) B会場(D104) 10:20-12:00

- (A1) 教科学習における発表場面でのe-黒板の活用方法に関する考察, 金子俊明(筑波大学附属聴覚特別支援学校)
- (A2) 児童の携帯電話利用と学習端末としての活用可能性に関する一考察 -水族館での実践事例を通して-, 石塚丈晴(静岡大学), 高田浩二(海の中道海洋生態科学館), 森谷和浩・前田喜和(チエル), 堀田龍也(メディア教育開発センター)
- (A3) ICT活用のエキスパート教師によるICT活用を分類する際の観点の検討, 堀田龍也(メディア教育開発センター), 中川一史(メディア教育開発センター), 黒上晴夫(関西大学総合情報学部)
- (A4) 学校外学習で交流学習を含む教育プログラムを設計する時の留意点—オランダ・アンネフランクハウスの事例に学ぶ—, 寺嶋浩介(長崎大学), 中橋雄(福山大学), 戸田就介(関西大学大学院)
- (B1) 校内におけるアクションリサーチに関する事例研究—問題改善段階—, 高橋健(新潟県新発田市立外ヶ輪小学校)
- (B2) 目標管理手法を用いたタイピング指導, 小山内幸治(ノースアジア大学教養部)
- (B3) コンピュータ画面に表示されたテキストの読みやすさに及ぼす行長の影響, 高橋純(富山大学), 山西潤一(富山大学)
- (B4) 映像を利用した英語学習支援システムの開発, 小林輝美(東京工業大学大学院), 赤堀侃司(東京工業大学), 加藤浩(メディア教育開発センター)

-----昼食(12:00~13:00)-----

付近に食堂等はありません。お弁当の注文を承ります(6月30日までに上記後藤までメールでお願いします)

午後の部 A会場(D204) B会場(D104) 13:00-14:40

- (A5) メディアに対する先有知覚の学年間比較, 後藤康志(新潟医療福祉大学)
- (A6) 地域素材を活用したメディア・リテラシーの実践, 小庄司一泰(新潟市立結小学校), 近藤正毅(五泉市立五泉東小学校), 丸山祐輔(新潟県立生涯学習推進センター), 柄澤朋暢(新潟市立二葉中学校), 後藤康志(新潟医療福祉大学)
- (A7) 教員のメディアリテラシー向上を目指した研修プログラムに関する研究, 丸山裕輔(新潟大学大学院)
- (A8) 小学生を対象とした情報モラル教育の実践と評価, 小川亮(富山大学人間発達科学部), 木嶋達平(魚沼市立堀之内小学校)
- (B5) 教科「情報」における情報活用の実践力を身につけるためのワープロ実習授業実践, 西澤文幸(新潟県立吉田高等学校)
- (B6) 普通教科「情報B」の教科書の内容分析 -平成19年度版の特徴と既出版との比較-, 上野慎之介(愛知教育大学大学院), 香山瑞恵(信州大学)
- (B7) 普通教科「情報C」の教科書の内容分析 -平成19年度版の特徴と既出版との比較-, 永田奈央美(電気通信大学大学院), 高橋正憲(東京都立山吹高等学校), 香山瑞恵(信州大学)

閉会挨拶・諸連絡 14:40-14:45

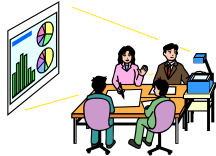
研究報告集年間購読のお勧め



予約価格は郵送料込みで3,500円です(当日売りは割高になります)。年間5冊、合計500ページ前後で、各研究会平均20件程度(平成18年度実績)の研究発表が掲載されます。詳しくは、学会本部事務局までお問い合わせください。

【学会本部事務局】〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル TEL/FAX: 03-5740-9505
E-mail: office@jset.gr.jp

研究会の発表募集



デジタルコンテンツの教育活用と授業デザイン/一般

- 日 時: 2007年10月20日(土)
- 会 場: 同志社女子大学 今出川キャンパスジェームズ館
(京都市上京区今出川通寺町西入)
- 開催担当: 余田義彦(同志社女子大学)
- 申込締切: 2007年8月20日(月) ●原稿提出: 2007年9月20日(木)

● 募集内容:

教育の情報化の進展により、学校でのICT活用は実験的・イベント的な段階を終わり、日常的活用が求められるようになってきています。しかし、ICTの特性をよく理解し、そのよさを活かして教育効果をあげている例はまだ多くありません。そこで今回は、デジタルコンテンツの教育活用と授業デザインに焦点をあてた研究を募集し、そのような授業を生み出して行くための方策について議論を深めたいと思います。また、上記のテーマにはこだわらない教育工学一般における発表も幅広く募集しております。

● 応募方法:

研究会Webよりお申し込みください。

● 申し込み締切: 2007年8月20日(月)

締切後、申し込まれた方宛に発表の採択結果を執筆要項とともに電子メールにて連絡いたします。

●原稿提出期限: 2007年9月20日(木)必着(厳守!)をお願いいたします。執筆要項に記載された宛先にお送りください。なお、PDF形式での原稿の電子的な提出を受け付けます。提出先は、研究会事務局(jset-submit@nime.ac.jp)です。電子メールに添付して送ってください。

研究会の今後の予定

今後の研究会開催予定は下記の通りです。年5回の開催を予定しています。

2007年10月20日	デジタルコンテンツの教育活用と授業デザイン/一般	同志社女子大
2007年12月22日	高等教育とeラーニング/一般	熊本大
2008年3月1日	日本語教育と教育工学/一般	名古屋大
2008年5月17日	テーマ未定	岩手大

研究会委員会からのお知らせ

研究会に関するご意見・ご希望、研究会テーマ・企画などありましたらお気軽に研究会までお寄せ下さい。

- (研究会全般, 研究会Web Page, 研究会発表の申込, 変更等, 原稿執筆) に関するお問い合わせ
⇒ 研究会幹事 jset-branch@nime.ac.jp
- (年間購読, 原稿提出) に関するお問い合わせ
⇒ 学会本部事務局 office@jset.gr.jp

研究会の報告

2007年5月19日リラ冷えとなった札幌、北星学園大学において「地域教育力と情報教育」をテーマで研究会を開催しました。

26件のご発表と特別講演があり、参加者は75名、とても充実した研究会となりました。特に、学校とPTA、地域社会との連携による情報安全等に関わる教育実践の報告など、社会の学びに対する関心の高まりを感じ、地域社会における学校の位置づけを再考する機会を得ることができました。特別講演では、Avril Loveless先生

(Fac.of Edu., Univ. of Brighton, UK)に、「誰の?どこで?なぜ?知識社会におけるCreativity-Creativityとデジタルツールの日英からの展望」と題して、英国における創造性および文化のための教育の取り組みやデジタルツールを活用した創造性育成教育の学習方法等についてご紹介いただきました。ボランティアで講演通訳を頂いた岸会員(関西大学大学院)はじめ、登壇者、参加者の皆様に感謝申し上げます。

(担当: 北星学園大学短期大学部 武田亘明)



第 11 期第 16 回理事会議事録

日 時：平成 19 年 5 月 12 日（土）14:40～16:30

場 所：キャンパスイノベーションセンター 806 会議室

出 席：赤堀侃司会長，永野和男副会長，山西潤一副会長，植野真臣，大谷 尚，木原俊行，向後千春，
近藤 勲，三宮真智子，清水康敬，永岡慶三，中山 実，南部昌敏，堀田龍也，村川雅弘，
山内祐平，大久保昇，下田昌嗣，事務局：長谷川，服部

1. 第 11 期第 15 回理事会議事録を資料のとおり承認した。
2. 会員の移動について承認した。
 - (1) 新入会員 61 名(正会員 34 名，学生会員 18 名，准会員 9 名)
 - (2) 退会会員 60 名(正会員 43 名，学生会員 12 名，准会員 4 名，維持会員 1 名)
 - (3) 会員種別変更 28 名(正会員へ 18 名，学生会員へ 3 名，准会員へ 7 名)
3. 各種委員会報告について
 - (1) 編集委員会
清水編集長から資料 3 に基づいて編集進捗状況が説明された。
論文等のデータベース利用および運用の方針，査読支援システムについての検討状況が報告された。
 - (2) 研究会委員会
近藤担当理事から，次回の研究会の開催について報告があった。
 - (3) 企画委員会
村川委員長から 6 月開催のシンポジウムの企画について報告があった。
 - (4) 大会企画委員会
木原委員長から，ニューズレターで広報した大会のお知らせ(第二報)について報告があった。
2008 年度大会(上越教育大学)の開催日程を 2008 年 10 月 11，12，13 日と決定した。
 - (5) 顕彰委員会
三宮委員長から，研究奨励賞，論文賞の第 1 段投票を実施しており，投票の依頼があった。
 - (6) 選挙管理委員会
大谷委員長から役員選挙結果について，資料 4 に基づいて報告があり，これを承認した。
 - (7) 将来構想委員会
山西副会長から，日中研究推進フォーラム(2007 年 6 月 19～20 日，関西大学千里山キャンパス)の企画について報告があった。
 - (8) 事務・総括
永野副会長から，各委員会の規程内容についての検討状況が報告された。
 - (9) 広報委員会
資料 6 に基づいて，ニューズレター 152 号の台割案が示され，ページ数の構成について検討した。
また，学会 Web サイトの更新について確認し，次回理事会までに更新することを確認した。
4. 総会議案書について
内容を訂正の上，議案書として作成することを承認した。
5. その他
 - (1) 大会申込管理システムについて
システムの開発状況について説明があった。
 - (2) 後援名義使用の承諾について
・「第 11 回視聴覚教育全国大会 第 58 回放送教育研究会全国大会 合同大会」(全国放送教育研究会連盟)
・「第 34 回教育工学研修中央セミナー IMETS フォーラム 2007」((財)才能開発教育研究財団)
 - (3) 協賛名義使用の承諾について
・ DSPTS 教育者会議(デジタル信号処理の教育を考える会)
 - (4) 共催名義使用の承諾について
・平成 19 年度工学教育連合講演会(社団法人日本工学教育協会)
 - (5) 協力名義使用の承諾について
・「e-school 第 3 回学校教育 IT 総合展」((株)日本工業新聞社)
 - (6) 本学会への広報について確認した。

以上

学会日誌

7月 7日 (土) 研究会「教育とメディア」(新潟医療福祉大)

7月28日 (土) ~ 29日 (日) 夏の合宿研究会 (富山大)

9月22日 (土) ~ 24日 (月) 第23回全国大会 (早稲田大)

10月20日 (土) 研究会「デジタルコンテンツの教育活用と授業デザイン」(同志社女子大)

12月22日 (土) 研究会「高等教育とeラーニング」(熊本大)

2008年

3月 1日 (土) 研究会「日本語教育と教育工学」(名古屋大)

5月17日 (土) 研究会「テーマ未定」(岩手大)

10月11日 (土) ~ 13日 (月) 第24回全国大会 (上越教育大)

国際会議の案内

ICALT 2007 <http://www.ask.iti.gr/icalt/2007/>

E-Learn 2007 <http://www.aace.org/conf/eLearn/>

ICCE 2007 <http://www.icce2007.info/>

SITE 2008 <http://site.aace.org/conf/>

WMUTE 2008 <http://www.wmute2008.org/>

お問い合わせ先 (Eメールアドレス)

- ◆ 論文投稿に関するお問い合わせ・・・編集委員会 (editor@jset.gr.jp)
- ◆ 研究会の開催についてのお問い合わせ・・・研究会事務局 (jset-branch@nime.ac.jp)
- ◆ 全国大会の開催についてのお問い合わせ・・・大会企画委員会 (taikai2007@jset.gr.jp)
- ◆ ニュースレター編集に関するお問い合わせ・・・広報委員会 (kouhou@jset.gr.jp)
- ◆ その他の掲載記事に関するお問い合わせ・・・学会事務局 (office@jset.gr.jp)

広報委員会

編集長:清水康敬, 広報委員長:堀田龍也, 委員:山西潤一, 石塚丈晴, 高橋 純
(独)メディア教育開発センター堀田研究室 E-mail: kouhou@jset.gr.jp

日本教育工学会ニュースレター No.152

2007年06月27日

発行人 赤堀 侃司

発行所 日本教育工学会事務局

〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル

TEL / FAX: 03-5740-9505 E-mail: office@jset.gr.jp

<http://www.jset.gr.jp/>

郵便振替 00180-2-539055